復興応援団だより

2013.5.1/ NO14
発行元：
一般社団法人
復興応援団
広報チーム
0226-25-9897

復興支援研修会

多賀城市で復興支援活動に携わっている人達を対象とした研修会を3月26、27、28日の3日間に渡り行いました。

1日目は新潟県妙高市から講師をお招きして「住民共助による地域福祉のためのマッププづくり」という題目で講演をしていただきました。

続いて2日目は、仙台市内の仮設住宅への支援活動をしている団体から講師をお招きして「仮設住宅支援のあり方を先行事例から考える」という題目で、3日目は仙台市内の助成財団から講師をお招きして「活動資金を確保するための助成金の取り方のコツ」という題目で講演をしていただきました。

3日間を通して、たいへん貴重なお話をお聞きすることができました。、質疑応答も盛り上がり、これからの活動に活かせる研修会になったと思います。今後もまた、このような機会をつくって復興の下支えに貢献していきたいと思います。

発見！東北グルメ

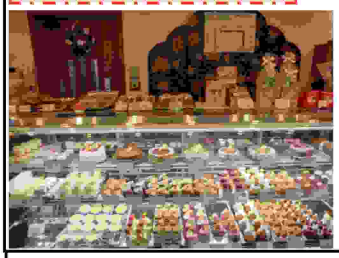
No. 9 Kazunoli Mulata

おしゃれな外観でおもわず立ちよってみたくなるお店、マカロン・ブティックKazunoli Mulata。今年で創業45年目を迎えるこのお店は地元だけでなく県外からの常連さんも通うほど大人気です。

店長の一押しはマカロン。種類がとても豊富で何味を食べようか迷ってしまいます。今回の取材ではローズピーチ味をいただきました。マカロンの表面はさくっと、中はふわっとしていて、中のジャムからはバラの良い香りがしました。もっと食べたいと思ってしまうおいしさ。しかも、お値段はとてもお手軽。これはたくさん買い込まずにはいられません。

マカロンの他にもクレームブリュレやモンブランといったケーキも充実しています。みなさんもぜひ、一度おいしいマカロンとケーキを買いにいらしてください。

住所：宮城県多賀城市町前3-2-25
営業時間：平日9:30～19:30
日曜・祝日9:30～19:00
定休日：毎週火曜日、月半ばで1回水曜日
TEL：022-362-7767



東北物産展

1月18日に渋谷カーサ・アステイオンにて復興応援団大感謝祭、2月19日に株式会社リクルートホールディングス本社内にて物産展が行われ、復興応援団の漁業＆ブルーツーリズム開発応援プロジェクトでお世話になっている、南三陸町泊浜の漁師・高橋直哉さんのわかめを出品しました。

この2つの物産展は商品の売り上げに貢献するとともに、東京の人たちにも南三陸の商品を知ってもらうことを目的として開かれたものです。

復興応援団大感謝祭・リクルート物産展両イベントとも大勢の人が訪れ、高橋さんのわかめを多くの人に知ってもらう良い機会となりました。参加した方々は、南三陸の食材を使用した商品に興味を示していたようです。

復興応援団東京事務所では、隔月で東京でのイベントを開催し、高橋さんのわかめをはじめ、南三陸町の商品を東京の人々に知ってもらう場を提供していきます。このようなイベントを通して、南三陸の魅力を感じてもらい、南三陸のファンになってくれる人を増やしていきたいです。

復興応援団とは

私たち一般社団法人復興応援団」は、地元の方が主役となった東北地域の復興のために活動しています。

活動目標は①東北地域の各市町村・集落のファンを増やすこと②地元の人とファンが一体となって復興とそのまちづくりに取り組むしくみをつくること③地元の人自身（特に若い世代）が復興とまちづくりに立ち上がる大きなうねりをおこすこと。

南三陸町では「ボランティア派遣」事業を実施しています。全国からのボランティア参加者に、地域再生に取り組む地元の方のお手伝いをし、地域の魅力に触れてもらうことで、「地域のファン」を生み出し、長期的な復興を支える人と人のつながりをつくります。

多賀城市での「支え合いネットワークづくり」事業では、今後の復興公営住宅の生活やまちづくりにもつながるような、住民の皆さんが中心になった自治コミュニティの形成を目指し、仮設住宅や見なし仮設の内外でゆるやかなネットワークづくりをお手伝いしていきます。

RING!RING! プロジェクト
KEIRIN.JP KEIRIN Official Website

おらほのヒーロー

file8 小野政道さん＝南三陸町歌津「小野花匠園」代表 ～農業で雇用を生み出す～

小野さんは、南三陸町歌津地区で農業を営んでいます。昨年の2月、それまで家族経営だった農業を法人化し、株式会社小野花匠園を設立しました。現在は菊の生産に加えて、トマトのブランド化を目指すなど新たな試みを続けています。

人化に踏み切った背景には、雇用を生み出したいという小野さんの強い思いがありました。

家族経営よりも卸し先や消費者の信頼を得られるという利点がある一方で、法人化には労働者とその家族の生活を預かるという重い責任が伴います。それでもなお法人化に踏み切った20歳の若手を2人雇用しました。「若い人は挑戦する。上の人は挑戦の場を提供したいと思った」。

長時間働くことのできない年配の方であっても、短い時間だけ働ける環境を整え、切だと思う。変な枠におさまらずに、のびのびやっていってほしい」。自由な発想で農業を楽しんでもらいたいと言う小野さん。今後も若い世代や震災で仕事を失った人たちの雇用を続けていきます。

事業を拡大し、雇用を生み出す。そのために小野匠園の商品には、小野さんをはじめ、そこで働く人たちの様々なストーリーがつまっています。熱い思いをのせて生産される小野花園の従業員は試行錯誤を繰り返しています。

小野さんと小野花匠

農業で被災者雇用応援プロジェクト

3月30～31日に18回目、4月27～28日に19回目となる「農業で被災者雇用応援プロジェクト」を開催しました。今回のプロジェクトでは、南三陸町歌津の小野花匠園のお手伝いをしました。

3月30～31日は2日間通して、小野花匠園のトマトの茎に紐を巻きつけるお手伝いをしました。これはトマトがまっすぐ伸びるために必要な作業です。説明を受けてから実際に作業をすると、とても繊細な作業でした。花と茎を傷つけないようにと参加者は緊張感を持ちつつも、互いにフォローをしあい、和気あいあいと作業していました。

作業終了後に、小野花匠園が今夏から開始するギフト商品としてのトマトの販売について、参加者と小野さんで意見交換を行いました。この意見交換の時間を設けてから様々な意見・提案をいただきました。その内のいくつかのアイデアは、すでに実現に向け動き出しており、小野花匠園のトマトの魅力を最大限に引き出せるように磨きをかけています。参加者からいただいた意見・提案がどのような形で実現されるのか楽しみです。

4月27～28日は、ツアー両日とも太陽が顔を出し、良い天気が続きました。丁度、南三陸の桜が満開の頃合いで海の青と木々の緑に混ざる淡いピンクがとても綺麗でした。

今回のトマトの作業は、突っ支い棒によるトマト苗の固定です。前回、トマトの苗への紐付けをやりましたが、トマトの成長につれて、実の重みで紐を吊っている天井自体が下がって来てしまいます。これを防ぐために、突っ支い棒を地面と天井の間に挟み込む作業です。突っ支い棒には竹を使います。一見、簡単そうなこの作業が中々難しく、何度も竹の棒が倒れてしまいました。棒が倒れることで、小野花匠園のトマトに傷をつけてはいけません。参加者は注意深く作業していました。また、今回は菊の定植作業のお手伝いもしました。まだ小さい菊の苗を畑に一つ一つ植えていきます。自分達の働きが目に見えるこの作業は、終えたときに達成感があります。

他地域から来たボランティアのみなさんに、こうした地道な作業にも関わってもらうことが南三陸町のファンづくりにつながるというのが復興応援団と小野花匠園の考えです。今回植えた菊が花開くお盆が楽しみです。

今後の予定

【南三陸】
○農業で被災者雇用応援プロジェクト#21
5月26日(土)-27日(日)
○ホタテオーナー制度開発応援プロジェクト#1
6月15日(土)-16日(日)

【多賀城】
○ホッとサロン
地元の福祉関係の皆さんが集会所で、お茶飲み会を開きます。時間は14時から16時です。
5月7日：野球場　5月14日：山王
5月21日：城南　5月31日：高橋公園
※曜日は全て(火)
○団だより6月号配布
6月15日（土）又は16日（日）

RING!RING! プロジェクト　KEIRIN.JP KEIRIN Official Website